（様式１）

「未来の担い手育成プログラム研究指定校」実績報告書（１年次）

１　学校名等

学　校　名	亀岡市立 亀岡中学校				校長名	白方 淳史
研 究 主 題	論理的思考力を活用した課題解決型学習 （認知能力･非認知能力の一体的な育成）					
研究の目的	課題解決型学習と本校で研究をしている「三角ロジック」を認知能力･非認知能力育成の共通のツールとして「正解のない問い」の解決を目指し、他者との協働やコミュニケーション能力の向上を図る。 また、取組や研究の成果を京都府や亀岡市の活性化につなげることで、自己肯定感、自己有用感を高める。					
学　　年	１年	２年	３年	特別支援	合　計	教職員数 ※校長・教頭を含む
学　級　数	5	5	5	6	21	43
生　徒　数	175	169	162	24	530	

２　研究校の概要

本校は昭和 22 年に開校された歴史の深い伝統校である。校区内には亀岡駅や市役所など市の中枢機能が集中しているほか、保津川下りの乗船場やサンガスタジアム by KYOCERA などの観光名所もあり、市内随一の賑わいを見せる地域である。

生徒たちは大変落ち着いた様子で学校生活、学習、学校行事などに取り組んでいるが、京都府学力・学習状況調査を分析すると自己肯定感、非認知能力に課題が見られた。

非認知能力向上に効果があるとされる学校行事や特別活動がコロナ禍の中で縮小や制限されたことで仲間づくりへの弊害が不登校生徒の増加という形になって表れている側面もある。

今年度も昨年度から引き続き、「三角ロジック」という論証モデルを取り入れ、年間３回の公開授業研究会を行い、京都教育大学植山教授を招聘し、各教科・領域で「論理的思考力の育成」について研究を重ねた。

今回、この課題解決型の学習（以下 PBL と表記）と本校で深めている「三角ロジック」を認知能力・非認知能力育成の共通のツールとして「正解のない問い」の解決を目指し、他者との協働やコミュニケーション能力の向上を目指し取り組んだ。

また本校の取組や研究の成果が京都府や自分たちの住む「まち」の活性化につながることで自己肯定感、自己有用感を高める手立てになると考えた。

３　主な研究活動

６月 29 日（水）　京都サンガ F.C.　出前講座　　サンガとの連携①（企業からの課題提示）

株式会社京都パープルサンガ ホームタウン推進課長 様から課題テーマを伝えていただいた。また、「京都サンガ F.C.」の理念や試合運営以外にも行われている企業活動などについて説明いただいた。

教室に戻るとすぐに、今日伺ったお話の印象に残ったことや感じたことをタブレットに記録した。

７月４日（月）　京都すばる高校　出前講座　　課題解決型学習先進校との連携①

京都すばる高等学校 より５名の先生方をお招きし、『アイデア発想で地域を変える？ ～創造力は鍛えられる！～』との題目で授業を行っていただいた。

授業の１時間目は、創造力トレーニングに挑戦した。様々な活動を通して、正解はひとつではないことや、こうあるべきといった固定観念から脱却したアイデアを出すことの楽しさを体験することができた。

２時間目は、まず、地域の魅力を再発見しようとマッピングを活用して亀岡市の魅力について考えた。次に、京都サンガ F.C.のテーマについて、個人で考えたあとグループで交流し考えを深めた。

８月６日（土）　Ｊリーグ試合観戦　　京都サンガ F.C.　体験学習

京都サンガ F.C.のご厚意により、柏レイソル戦に招待していただいた。

サッカーを生で見るのが初めてという生徒も、試合前の会場の雰囲気を楽しんだり、試合中はサンガサポーターの方と一緒に手拍子をしたりと、大変有意義な時間を過ごすことができた。

９月 14 日（水）　亀岡市の取組を知る　　企画書（グループ）の作成

本日は、亀岡市役所生涯スポーツ課今西課長様より亀岡市のサンガを応援する取組についてお話をしていただいた。今まで知らなかった亀岡市の取組や自分たちが考えた企画の参考になる取組もあり、その後の企画書づくりをより活発に行うことができた。

その後、今西課長様と亀岡市教育委員会戸根指導主事様にも企画書づくりの様子を見ていただき、企画書の内容にアドバイスをもらっているグループもあった。

9月27日（火）　京都すばる高校　オンライン会議　　企画書（グループ）の作成

京都すばる高校とオンライン会議をもった。

起業創造科３年生の皆さんから、それぞれのグループがアドバイスをもらい、先日作成した企画書をブラッシュアップしてもらった。

「高校生に自分たちの企画を説明し、高校生からの質問に答える」、そのような初めての体験に緊張し戸惑いながらも、生徒たちは一生懸命取り組んでいた。今後、ブラッシュアップされた企画をさらに改良し、各グループでプレゼンをすることになる。

12月2日（金）　　学年発表会

６月から取り組んできた未来の担い手育成プログラムの取組。そのまとめとなる学年発表会を行った。

各クラスから選ばれた代表５グループの発表は、どのグループも自分たちが考えた企画を伝えようという熱意を感じる発表だった。

当日は、京都パープルサンガ株式会社ホームタウン推進課の皆様、京都教育大学植山教授、京都府教育委員会指導主事の先生方、京都府中学校教育研究会総合的な学習部会の先生方にも参観していただきいた。

令和５年２月18日（土）　　きょうと明日へのチャレンジコンテスト

京都府教育委員会主催「第３回きょうと明日へのチャレンジコンテスト」に本校２年生の代表チームが出場した。

代表の４名は、２年生全員がPBL「未来の担い手育成プログラム」に主体的に取り組んできた成果を存分に発揮し、立派にプレゼンテーションを披露することができた。

また、他校のプレゼンテーションを聞き、質問をしたり意見をのべたりと深い学びを得ることができた。　　≪その他、活動の詳細については本校ホームページをご覧ください≫

４　今年度の研究の成果と検証

以下は取組後（12月）学年生徒（156名）に行ったアンケートの結果である。【一部抜粋】

8. 未来の担い手プロジェクトの活動は楽しかったですか？

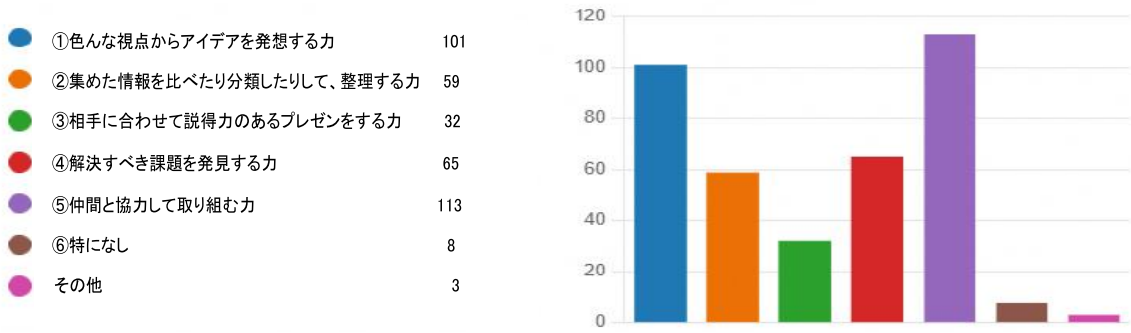
詳細

9. 未来の担い手プロジェクトを通じて、仲間や自分の良さに気づく場面はありましたか？

詳細

10. 未来の担い手プロジェクトに取り組む前と取り組んだ後を比べて、自分の中で伸びたと思う力を以下からすべて選んでください。

詳細



【生徒】

生徒同士が「正解のない問い」に向き合い、最適解を生み出すための経験を通して、コミュニケーション能力の向上を図ることができた。

またグループでの活動を通して、仲間や自分の良さに気づくことができた。

【教職員】

職員研修や先進校の視察や出前授業を通して、PBLについての基礎知識が深まり、生徒とともに主体的に活動を進めることができた。

５　今年度の課題

（１）認知能力、非認知能力の変容について京都府学力・学習状況調査の質問調査を活用し検証したが、結論づけるところまではできなかった。次年度は、さらに検証を進める必要がある。

（２）取組学年（２年）の教職員に対して研修を行ったが、全教職員ではなかったため共通理解に課題が残った。教職員全体への研修を実施し、教科横断的な取組になるようカリキュラム・マネジメントを行う。

６　事業終了後の研究構想

（１）対象学年の京都府学力・学習状況調査の質問調査等を用いて、非認知能力（「学習への意欲」「自尊感情の高まり」）が見られるかについて比較・検証を行う。

（２）全教職員で研修を実施し、PBLについての共通理解を図ることで教科横断的な取組にする。

（３）亀岡中学校として「話し合い活動」のモデルを作り、PBLに限らず、教科の学習で活用し、コミュニケーション能力の向上を図る。